

平成26年9月議会で代表質問(自民みらい会派代表)

1. 台風11号に関連した地域の課題

Q 台風11号は、県下に伊勢湾台風以来といわれる大雨特別警報が出され、津市でも雲出川、安濃川、岩田川等の堤防決壊や氾濫が予想され、避難指示が出された。平成24・25年度、国・県の河川土砂排出(河床掘削)作戦が功を奏し流水断面が確保され流下能力が上がり大きな被害に至らなかった。成果の見えにくい地味な仕事だが今後も引き続き継続をお願いしたい。地元地域の要望として県の取り組みは?

- ①穴倉川・安濃川の今後の河床掘削の取り組みについて。
- ②三泗川の整備計画について。
- ③相川上流域の浸水被害軽減対策。
- ④香良洲町防砂公園の取り組みについて。
- ⑤香良洲橋の整備計画について。

A ①河川の河床掘削は、喜んでらえる評価をいただいた、今後も河川の状況を見ながら定期的実施していきたい。
②三泗川については岩田川整備が平成29年度完了、その後、整備に取り組みたい。
③相川整備は下流から整備を進めており、上流部の抜本的解決策は難しいが、下流域の整備を進める事でご理解いただきたい。
④香良洲防災公園は、国・県・市が一体となって建設残土処分地として整備し、津市が災害避難場所として整備を進めるもので市とも十分協議をしていきたい。
⑥平成25年度から香良洲橋架け替え工事に着手、災害緊急輸送道路として早期完成を目指します。(県土整備部長)

2. 農業政策について

Q ①多面的機能支払いについて県のガイドラインが示された、国・県・市町の補助金をもらっているためその用途については、対外的に説明する「義務」と「責任」を負うとして、制約や縛りを設ける事は国が目指した目的から逸脱するのではないか、地域の自由な裁量に委ねるべきと思うが如何に?
②担い手に農地集積が進まない、貸し手と借り手の思慮が及ばないところで機能的に農地集積を図る目的で農地中間管理機構が設立された。その成果は?
③農地集積がもたらす弊害として農地の貸し手が「経営転換協力金」「地域集積協力金」「耕作者集積協力金」を受けて、農業から完全離脱したら、農業・農村の多面的機能維持活動からも完全に手を引く事にならないか?

A ①地域特殊事情等により問題が生じた場合、市町の裁量を優先とする条項を設けている。
②一次募集により369戸4,700haの申し込みがあり、10月以降二次募集を募り、予定通りの進み具合である
③農道管理や、農業排水路維持管理は、農村集落の維持向上になくてはならない共同作業。地域の話し合を通じて維持結束に取り組んでいきます。(農林水産部長)

3. 榊原温泉振興と神湯館の今後について

Q 榊原温泉は清少納言ゆかりの日本三名泉として関西地域では、高い評価を得て繁盛をしてきました。榊原温泉の歴史とも言われる神湯館は、高度経済成長期に三重県の地方共済組合の保養所として引継がれ、組合員の憩いの場として繁盛してきた。組合員の憩いの多様化により利用者は激減、一般入込客も取り込み運営を維持してきたが、継続をするためには、1億7千万円の設備投資が必要となり、共済組合では継続が困難との判断から売却を示唆している。

景気低迷後は、入込客も落ち込み、いくつかの旅館が閉館に追い込まれる中、各旅館は先人の努力の火を消さないように榊原温泉繁栄と復興に頑張っている。観光成長戦略を掲げる三重県の取り組みを伺います。

A 平成26年2月定例会議において総務地域常任委員会の委員長報告で施設の売却については慎重に検討されることを要望しますとご意見をいただいております、県の共済施設として何ができて何ができないかを見極め検討してまいります。尚、榊原温泉の重要性やピーアールについては今後も引き続き行っていきます。(知事)

4. ひとり親家庭の支援策

Q シングルマザー専用のシェアハウスが東京で誕生しているとマスコミ等で取り上げられている。私が調査した中では、国土交通省の古家(空き家改修)を活用した民間活力によるシェアハウスの取り組み実例があり議論を深めたいと思いましたが時間が無くなったため次回の機会に回し、要望としてシングルマザー専用シェアハウスの取り組みについてご検討ください。

住みよい街づくり、なごみある三重県を目指して



2015.01 第18号

前野かずみ県政レポート

発行 平成27年1月
発行者 三重県議会議員 前野和美
編集 和み会(なごみ)
〒514-1105 三重県津市久居北口町438-31
TEL 059-254-6605 FAX 059-254-6606



県道青山高原公園線災害現場調

ごあいさつ

輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年のは年末には、突然、衆議院議員選挙が行われ、国民の民意が安倍総理の掲げる成長戦略に期待をして自民党政権の継続が決まりました。

思えば2年前の日本経済は、マイナス成長、行き過ぎた円高で、日本経済は危機に瀕していました。アベノミクスの金融政策や財政出動により企業倒産は低水準に落ち着き、雇用は生まれ有効求人倍率は、0.83倍から1.09倍までアップし確実に景気は上方に向かって、シフトしてきています。この状況をさらに推し進める国民的合意がなされたものと思っています。

三重県もアベノミクスの影響を受け、落ち込んでいた製造業の産出額が10兆円を超え、全国9位と躍進し津市の有効求人倍率も1.54倍と景気浮揚へ向けた環境が整ってきました。

本年こそ三重県が大きく前進するため、豊かな安心して暮らせる社会づくりに向けて「情熱」をもって取り組み、直ちに「行動」し「信頼」される議員でありたいとの思いで「現場で仕事をモットー」に今年も頑張ります。よろしくごお願い致します。



三重県議会議員 前野かずみ

住み良い街づくり、**和み**と活力ある三重県政を目指して、前野かずみは行動します。**安全 安心 安定** ある三重県を目指して

地元要望にしっかりと対応してきました

榊原地区の皆さんの長年の懸案事項であった亀山白山線道路拡幅工事に平成15年から取り組み3期に分けて着手、今回2期工事の最終工区が完了し1期工事区間(源太橋)に続いて2期工事区間(寺野～平成橋)の整備が終わりました。

今後は、3期工事区間(源太橋から落合橋を経て6区)までの整備を進めていきたいと思っています。地元要望を受け地道に取り組んできた成果で、皆さんのご協力に感謝します。



完成した亀山白山線2期工事



予定する3期工事箇所

津市に対する要望

河芸町南黒田の排水路と狭隘な道路のため緊急車両の進入ができない状況がありました。陳情を受けた「前野かずみ」は津市土木関係者、河芸総合支所地元自治会長、近隣関係者が現場で何度か立ち会いや協議を重ね、排水路の確保と道路幅の確保ができました。



関係者で現場調査



道路が広く使える

現場で仕事モットーに朝7時から

善応寺団地の出入口交差点、車が渋滞するため県道へ出られない状態が続いている。中川原橋の架け替え工事後は、信号機設置で解決する。それまでの間の対策として、県土木、久居総合支所、南工事事務所、津南警察、地元住民が朝7時から現場で現状を見ながら意見交換その場で解決策を協議しました。結果、交差点であることが認識できる赤い枠線で表示することで同意、県土木が工事を実施。地元自治会からドライバーのマナーの問題か、一向に効果が上がらず、再度対策の要望があり交差点全面赤色着色に改良、渋滞時でも交差点内に停止する車両が激減したと、地元自治会は喜んでおられます。



関係者が現場で協議



渋滞が続く



赤色着色交差点上で停止する車が少なくなった



県道上稲葉羽野線整備状況

県道上稲葉羽野線道路改良事業平成15年地元要望を受け整備に向け取り組んでいます。すでに、1期工事茶屋橋工区はすでに完成、現在2工区の区間を整備途中です。

地元調整のため遅れている26年度事業部分と27年度事業をつぎ込んで発注予定です。地元調整が整えば27年度完成供用開始を目指しています。



一部完成やっばりいい

安濃川・穴倉川・地元関係自治会 長年の土砂浚渫要望陳情活動実る(前野かずみと共に)

青字は未執行部分

安濃川・穴倉川の土砂浚渫要望を26年度も12月に県土整備部に陳情活動を行いました。

芸濃町雲林院地区自治会連合会、芸濃町安西地区自治会連合会、安濃町安濃地区自治会連合会、安濃町明合地区自治会連合会、安濃町村主地区自治会連合会、安東地区自治会連合会、橿形地区自治会連合会、神戸地区自治会連合会、新町地区自治会連合会の連合会長9名の皆さんと事務局の中勢用土地改良区と共に平成20年より毎年、県土木部に陳情を重ねてきました。

合併以前は芸濃町、安濃町、津市と3自治体に分かれており足並みがそろった陳情活動ができず、成果は上がっていませんでした。合併後は、安濃川・穴倉川とも、新津市区域にある事から自治会が中心になって要望活動をする体制が整い、両河川受益地の中勢用土地改良区に事務局をお願いして活動が始まりました。

その効果が、現れたのが26年の11号台風です、全県下に伊勢湾台風以来の大雨特別警報が発令されたにもかかわらず、大きな被害に至らなかったのは、安濃川で83,660m³(2億6,100万円)穴倉川で31,000m³(1億3,100万円)の土砂が24年度補正、25年度予算により土砂が排出されました。財源は、社会資本整備交付金、県単河川局部改良事業、災害普及事業、埋塞災事業等の予算を充てて実施を頂きました。

その結果、河川断面の流水確保量が増え障害物がなくなった分、流速が早くなり短時間で下流に排水され大きな効果を挙げたものと推測されます。

県もこれまで目に見えない投資と積極的でなかつた事業ですが、今回の成果をとらえ今後は計画的に河川浚渫を行うと決意を聞かせていただき、地元関係者の皆さんと一緒に重ねてきた陳情活動が効果を上げた事を報告させていただきます。

安濃川・穴倉川 土砂搬出						平成26年7月現在			
北大谷川		安濃川		穴倉川		雲出川・波瀬川			
20			伐木伐竹						
21			県警本部前～メッセウイング						
22	河床掘削	1,900	m ³	砂利採取	1,770	m ³			
				河床掘削	5,900	m ³			
23				河床掘削	4,900	m ³			
				砂利採取	5,200	m ³			
24				砂利採取	1,770	m ³			
				砂利採取	6,090	m ³			
	小計	1,900	m ³	計	25,630	m ³			
24	安濃川社会資本整備交付金及び埋塞災事業	1億8,000	万円	河床掘削	10,000	m ³	穴倉川社会資本整備総合交付金 1期	8,900	万円
				河床掘削	8,200	m ³	河床掘削	17,900	m ³
25	県単河川局部改良	3,300	万円	河床掘削	8,100	m ³	穴倉川社会資本整備総合交付金 2期	4,200	万円
	災害普及事業	4,800	万円	河床掘削	6,100	m ³	河床掘削	13,100	万円
	小計	2億6,100	万円	小計	83,660	m ³	1期+2期	13,100	万円
				小計	31,000	m ³	小計	88,000	m ³
26	安濃川社会資本整備交付金事業			河床掘削	7,000	m ³	河床掘削	5,000	m ³
	埋塞災事業			河床掘削	6,300	m ³	予定価額	1,000	万円
				河床掘削	2,000	m ³			
				小計	15,300	m ³	小計	5,000	m ³
27							河床掘削	5,000	m ³
							予定価額	1,000	万円
	小計	0	m ³	小計	15,300	m ³	小計	5,000	m ³
	合計	0	m ³	合計	98,960	m ³	合計	93,000	m ³
							合計	150,000	m ³